

The 44th Annual Meeting of
Japanese Association of Therapeutic Exercise

第44回日本運動療法学会 学術集会

抄録集

会長：石田 信彦 学校法人和風会多摩リハビリテーション学院専門学校
会期：2019年 6月 22日(土)
会場：レストラン アラスカ パレスサイド店(東京・竹橋)

第44回日本運動療法学会主催事務局

〒359-0037 埼玉県所沢市くすのき台3-18-1

医療法人社団和風会 所沢中央病院 検査科内

Tel: 04-2994-1265 ext.368 Fax: 04-2991-4656

E-mail: 44thjetp@wafukai.or.jp URL : <http://www.wafukai.or.jp/44jate/>

実行委員会

【会長】 石田 信彦

【事務局長】 渡辺 圭一

【実行委員】 神谷 具巳、稻石 博行

ご挨拶

第44回日本運動療法学会学術集会を迎えて

第44回日本運動療法学会

会長 石田 信彦

(学校法人和風会 多摩リハビリテーション学院専門学校)

この度、令和元年6月22日、東京にて行われる第44回日本運動療法学会の会長を仰せつかりました、学校法人和風会多摩リハビリテーション学院院長の石田信彦です。「健康長寿をめざした運動療法との融合」をめざす本学会の会長を務めさせていただくことは、光栄であり、大変な名誉です。

今学会のテーマは「運動療法から始まるフレイル予防と地域包括ケアシステム」とさせていただきました。厚生労働省によると、地域包括ケアシステムは、高齢者が重度な要介護状態となっても、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制と定義されています。高齢者が住み慣れた街に住み続けることが出来る地域づくりを実現するためのものですが、その一方で、高齢化に伴い、認知症患者は2020年には約630万人、フレイル有症率は、2013年の調査で、65歳以上の11.5%に達するというデータもあり、これらが要介護状態の要因となっていることを考えると、運動療法はこれらの社会および健康に関する課題解決の一助となる可能性があることは周知の通りです。

本学会に集う研究者は、医学だけではなく、栄養学、臨床検査学、生体工学、運動生理学といった多領域にわたる学識と経験を持っております。本学術集会では、学会員が一堂に会することで、より高いレベルに展開させていく使命を帶びております。ベテランの研究者から、フレッシュな若手研究者まで、老若男女問わず、日ごろの研究成果に真摯に向かい合って、開かれた討論の場として、このたびの44回学術集会を活用いただければと考えております。社会の発展、国民の健康長寿への貢献をめざす、運動療法学会を、今後とも引き続き、ご指導、ご鞭撻賜りますようお願いするとともに、東京にて開催される第44回学術集会へのご参加・ご参集を、宜しくお願い致します。

タイムスケジュール

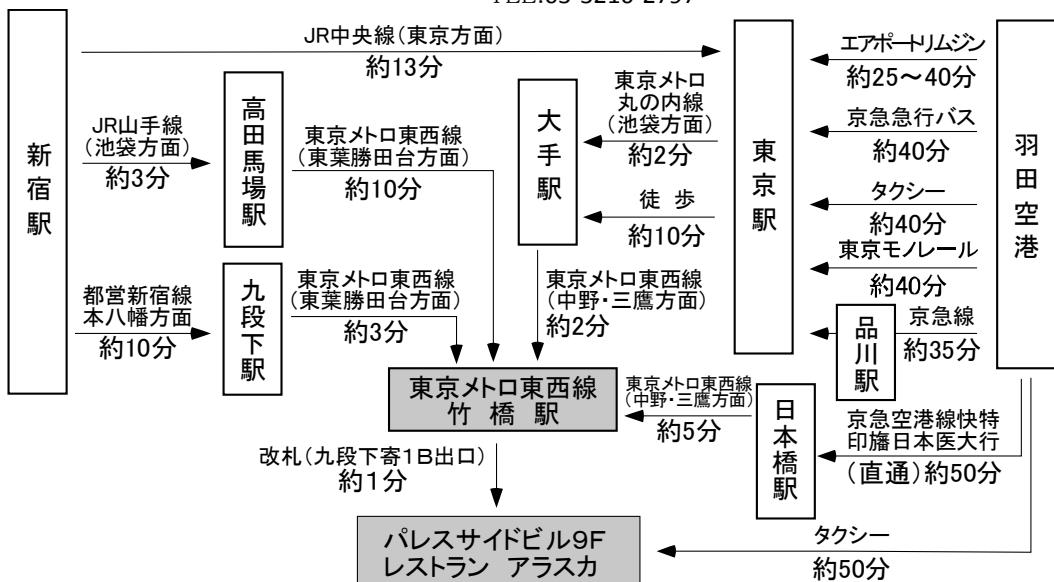
	メイン会場		サブ ブース
8:30	受付準備		
9:30	会場受付開始		
9:50	開会のあいさつ 会長 石田 信彦 学校法人和風会 多摩リハビリテーション学院専門学校	10分間	
10:00	一般演題 I 1. 「運動による身体機能維持のメカニズム: 体表からの周期的局所圧迫は間質流促進を介して その部のマクロファージの機能を修飾し不動化による骨格筋の萎縮を緩和する」 澤田 泰宏 (国立障害者リハビリテーションセンター病院臨床研究開発部(研究所兼任)) 2. 「運動は肥満ラットの糖尿病進展を抑制するとともに肝臓でのニトロソ化ストレスを軽減する」 篠崎 昇平 (ハーバード大学医学部) 3. 「造血幹細胞移植治療患者に対する運動療法の安全性と実行可能性」 水落 和也 (神奈川県立がんセンター・リハビリテーションセンター) 4. 「トレッドミル運動の血中炎症性サイトカインに対する影響」 金木 正夫 (ハーバード大学医学部) 5. 「マイオスタチン欠損による筋肉量の増加は敗血症によるマウスの致死率を低下させる」 小林 真之 (ハーバード大学医学部) 6. 「老齢男性における運動性と生体力学的機能: テストステロンとロコモ」 Julius E. Fink (Graduate School of Medicine, Department of Metabolism and Endocrinology, Juntendo University)	6演題 発表 7分 質疑応答 3分 合計60分間 座長: 牧田 茂 埼玉医科大学 國際医療センター 心臓リハビリテーション科	
11:00	特別講演 『国家戦略としての「フレイル予防』～三位一体(栄養・運動・社会参加)を通した健康長寿のまちづくり～』 飯島 勝矢 (東京大学 高齢社会総合研究機構)	50分 質疑応答10分 60分間 座長: 石田 信彦	
12:00	休憩及びお弁当配布時間 20分	20分間	
12:20	ランチョンセミナー 『運動はなぜ健康に良いのか～メカニズムと新しい可能性～』 金木 正夫 (ハーバード大学医学部)	40分 質疑応答10分 50分間 座長: 塚川 民治 医療法人社団和風会	理事会
13:10	休憩 10分	10分間	
13:20	総会 司会進行 石田信彦	10分間	
13:30	教育講演 『急性期病院入院患者の筋量に対する臨床的アプローチ』 小林 龍生 (防衛医科大学校病院 リハビリテーション科)	50分 質疑応答 10分 60分間 座長: 上村 民子 医療法人社団和風会	
14:30	一般演題 II 1. 「高度肥満域の視覚障害者に対する減量プログラムの取り組み～トレッドミルを活用したステップ運動の試み～」 山下 文弥 (国立障害者リハビリテーションセンター 障害者健康増進・運動医学科支援センター) 2. 「骨粗鬆症患者におけるサルコペニアとマイオカイン」 樋口 貴彦 (宗像水光会総合病院) 3. 「ストロレで筋肉を鍛えて元気はつらつ！」 多嘉良 稔 (元 松山西病院 泌尿器科) 4. 「認知課題と二重課題の併用トレーニングが二重課題干渉の改善に及ぼす影響」 木村 剛英 (つくば国際大学) 5. 「障害者のサルコペニアについての検討～回復期脊髄損傷者の症例から」 宮嶋 利成 (千葉県千葉リハビリテーションセンター・リハビリテーション療法部) 6. 「回復期脊髄損傷者の体組成変化と身体機能の関連について」 佐藤 仁俊 (千葉県千葉リハビリテーションセンター・リハビリテーション療法部) 7. 「症性による筋収縮は脊髄損傷後の骨折治癒を促進する」 嶋谷 直義 (国立障害者リハビリテーションセンター・研究所運動機能系障害研究部) 8. 「肥満患者における歩き方の違いが歩行立脚期の膝関節内転モーメントに及ぼす影響」 DORJRAVDAN MUNKHDELGER (関西医科大学大学院医学研究科) 9. 「急性期病院での低栄養患者に対するリハビリテーション栄養管理」 黒澤 洋一 (医療法人社団和風会 所沢中央病院) 10. 「ご近所型介護予防」を導入しての運動の結果報告と今後の課題」 吉川 貴矩 (医療法人尚寿会大生水野クリニック・リハビリテーション科) 11. 「運動療法から自立支援へ～当院での短時間通所リハビリテーションの取り組み～」 吉澤 博之 (大生病院 リハビリテーション科)	11演題 発表 7分 質疑応答 3分 合計110分間 座長: 豊倉 稔 東海大学大橋病院 リハビリテーション科 生駒 一憲 北海道大学病院 リハビリテーション科	
16:20	休憩 10分	10分間	
16:30	シンポジウム 「健康長寿社会実現に向けた提言」 『超高齢社会における サルコペニア/フレイルの克服を目指して ～まちぐるみで創りあげるフレイル予防事業の重要性～』 池田 久雄 (帝京大学福岡医療技術学部 看護学科) 『予防医療に対するコミュニティ型遠隔医療の位置づけ』 栗原 毅 (栗原クリニック・日本橋) 『地域包括ケアシステムを25分で理解する』 伴 正海 (横浜市立大学)	25分 × 3名 討議 15分 90分間 座長: 林 潤一 新都心十二社クリニック	
18:00	閉会の挨拶・表彰式 会長 石田 信彦先生		

交通のご案内

会場:パレスサイドビル 9F レストラン アラスカ

(〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1丁目1)

TEL:03-3216-2797



【飛行機・新幹線などお使いの方へ】

飛行機:京浜急行「羽田空港」から「東京メトロ東西線竹橋駅」まで約50分

「羽田空港国内線ターミナル駅」(京急空港線)→日本橋駅(東西線)→竹橋駅

新幹線: JR「東京」から「東京メトロ竹橋」まで約15分

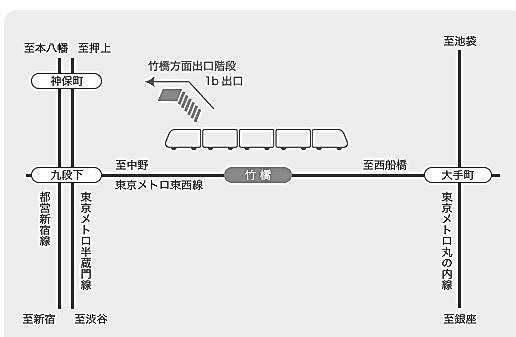
東京駅→大手町駅(東西線)→竹橋

※ 詳細に関しては各種交通機関をお調べください。

※許諾を受けては各種交通機関をお請りください。
※パレスサイドビルは竹橋駅に直結しております。

中野寄り階段「竹橋方面出口」(1B出口)をご利用ください。

- 東西線竹橋駅改札(九段下寄り1B出口)
 - 毎日新聞社通用口(西コア)
 - エレベーターホール(西コア)
 - 9Fレストランアラスカ パレスサイド店



1 東西線竹橋駅改札
(九段下寄り)



2 每日新聞社通用印
(西コア)



3 エレベーターホール
(西コア / 東コア)



4 パレスサイド店入口
(9F)



【お車でお越しの方へ】

首都高速の出入り口(二ツ橋、北の丸、代官町、神田橋)からアクセスが容易です。

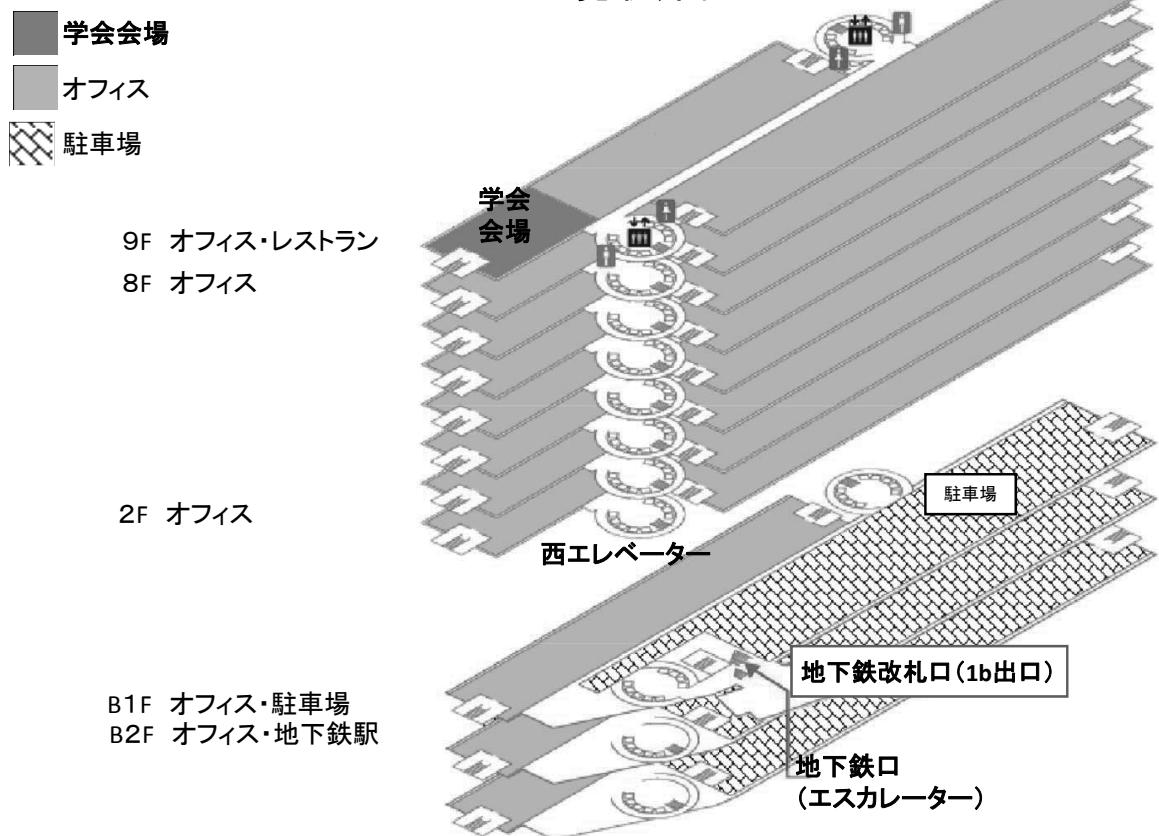
※左図周辺地図参照

※駐車場については限りがありますのでご了承ください

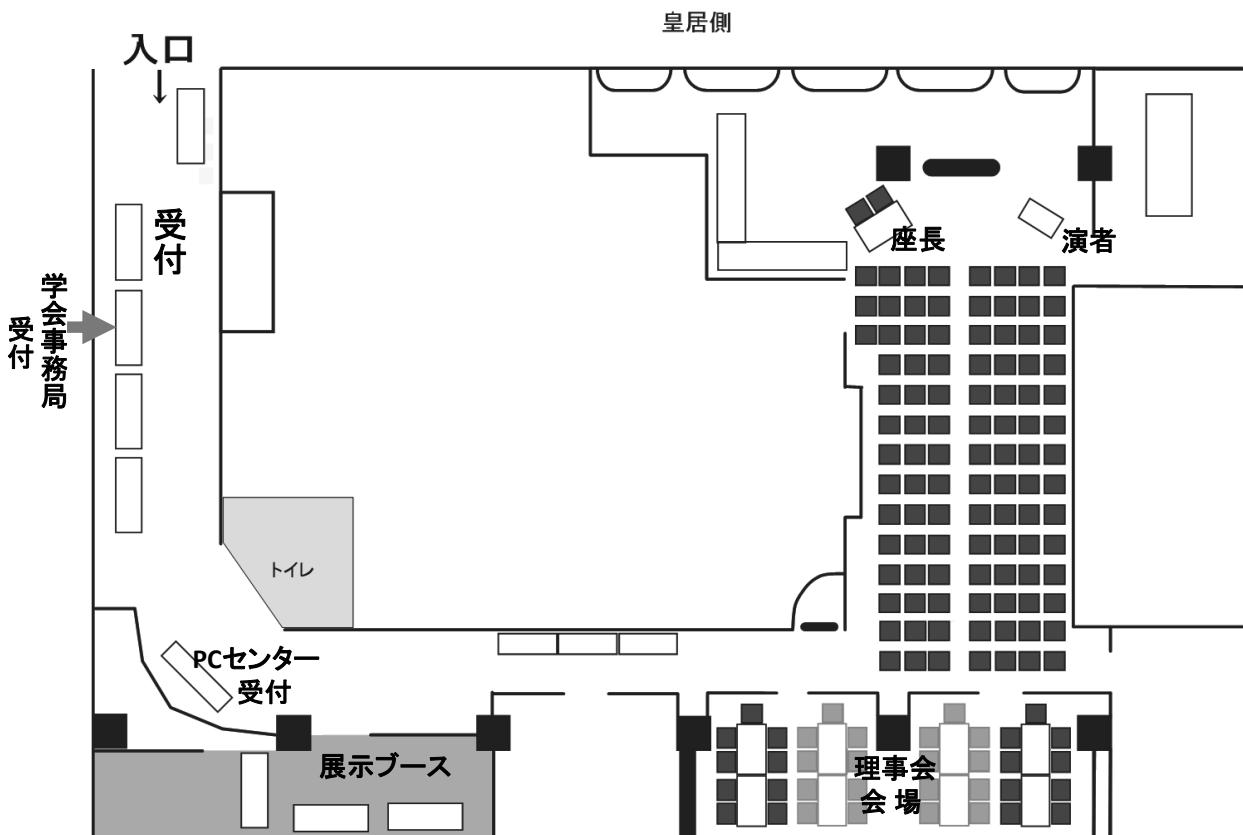


会場のご案内

ビル内見取り図



会場内見取り図



学会参加者へのご案内

1. 受付

●事前参加受付

ホームページ(<http://www.wafukai.or.jp/44jate/>)、事前参加登録ページよりご登録ください。

※2019年5月12日(火)～6月16日(日)までとなっております。

※事前登録の方にはランチョンセミナーの整理券を優先的に配布いたします。

※ランチョン整理券は枚数制限がありますのでお早めにご登録ください。

※事前参加申し込みの方は、メールのコピーを受付でご提示していただき、
学会参加費を下記の要領でお支払いください。

●参加受付

日 時	6月22日(土) 9:00～受付ロビーにて
-----	-----------------------

2. 参加費

医師(会員・非会員)	5,000円
医師以外(会員・非会員)	3,000円
学生・大学院生	無料(学生証要提示)
懇親会費	3,000円
抄録集(会場で購入)	1,000円

- ・クレジットカードは使えません。現金にてお支払いください。
- ・引き換えに受領証・参加証(ネームカード)をお渡しいたしますので、所属・氏名をご記入の上、ご着用ください。
- ・学会参加の際は、必ず抄録集をご持参ください。(当日は有料販売となります)。

3. 懇親会 ふるってご参加くださいますようお待ちしております。

会場:レストランアラスカパレスサイド店(学会場と同じ)

時間:18時25分より

会費:一般・会員 5,000円→3,000円

学 生 無料

4. 理事会

12時20分～13時10分 学会場横、会議スペース

5. ランチョンセミナー

時間: 12時20分～13時10分

※当日、受付にて整理券を配布いたします。

※整理券は事前登録の方を優先に配布いたします。

※当日参加の方は先着順となりますのでご了承ください。

5. クローク

当日、クロークの準備はございません。

教育研修・資格更新単位取得について

本学会では、日本医師会生涯教育講座、日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学會、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会の単位申請が可能です。詳細につきましてはここで手続きを確認してください。

1. 日本医師会生涯教育講座単位について

対象講演	カリキュラムコード	単位	受講料
特別講演	13	1単位	1,000円
教育講演	19	1単位	1,000円
シンポジウム	シンポジウム1	11	0.5単位
	シンポジウム2	12	0.5単位
	シンポジウム3	6	0.5単位

特別講演、教育講演、シンポジウム1～3の受講により日本医師会生涯教育講座単位を取得できます。受付にて受講料をお支払いいただき、お申し込みください。受領証明書をお渡しします。各自で医師会にて手続きをお願いします。受講証明書の再発行はできませんので、紛失しないようにご注意ください。

2. 日本整形外科学会生涯教育単位について

対象講演	日整会認定番号	分野番号	受講料
特別講演	19-0641-01	1, 14-5, Re	1,000円
教育講演	19-0641-02	13, Re	1,000円

特別講演、教育講演が日本整形外科学会の教育研修講演(1単位)に認定されております。受付にて、受講券をお支払いいただき、お申し込みください、なお、単位申請にはIC会員カードが必要ですので必ずご持参ください。お忘れの場合は単位を取得できませんのでご留意ください。

教育研修・資格更新単位取得について

3. 日本リハビリテーション医学会

対象講演	特別講演	1,000円
	教育講演	1,000円

特別講演、教育講演の受講により、日本リハビリテーション医学会専門医・認定医は、生涯教育単位(日本専門医機構認定リハビリテーション科専門医 1単位、日本リハビリテーション医学会認定臨床医 10単位)を取得できます。受付にて受講料をお支払いいただき、お申しください。受領証明書をお渡します。各自で年度末に受講証明書を日本リハビリテーション医学会事務局へ郵送し手続きをお願いします。受講証明書の再発行はできませんので、紛失しないようにご注意ください。

4. 日本理学療法士協会生涯教育単位について

本学会参加により日本理学療法士協会専門・認定制度におけるポイントを取得できます。

各自で、必要書類を揃えて日本理学療法士協会に申請をしてください。参加証明書の再発行はできませんので、紛失しないようにご注意ください。

申請方法の詳細につきましては日本理学療法士協会へお問合せ下さい。

5. 日本作業療法士協会生涯教育単位について

本学会参加により日本作業療法士生涯教育制度 基礎ポイントを取得できます。

各自で、必要書類を揃えて日本作業療法士協会に申請をしてください。参加証明書の再発行はできませんので、紛失しないようにご注意ください。

申請方法の詳細につきましては日本理学療法士協会へお問合せ下さい。

演者・座長へのご案内

1. 演者の方へ

今回、一般演題のポスター発表はございません。全て口演発表となります。

1) 発表時間 セッションごとに講演時間、質疑応答の有無・時間、および総合討論の有無など構成が異なります。事前にお送りしておりますご案内をご参照ください。

※時間厳守でお願いいたします。

	1演題あたりの発表時間	スライド枚数
特別講演 教育講演 シンポジム	※別途ご案内しております 書面にてご確認ください。	スライド枚数に制限はありませんが、発表時間内で納まる枚数で作成してください。
一般演題	講演7分+質疑応答3分	

2) 講演データの準備・登録は以下のようにお願いいたします。講演予定の60分前までにスライド受付にてデータ受付を行っていただきますようお願いいたします。データの持込み、ノートパソコンの持込み、いずれも可能です。Macintoshで発表の方、動画がある場合はPCのお持込みを推奨いたします。

データ形式

本会での発表可能なデータ形式は、下記の要領で作成または、動作確認したものです。

Windows版:PowerPoint 2003、2007、2010、2013、2016

のMicrosoft PowerPointを使用されている方、

※Macintoshで発表の方、動画がある場合はご自身のPCをお持込みください。

※フォントは次のものを推奨します。

日本語: MSゴシック、MSPゴシック、MS明朝、MSP明朝

英語: Times New Roman、Arial、Arial Black、Arial Narrow、

Century、Century Gothic、Courier New、Georgia

※動画をご使用の場合は、下記のソフトで再生可能であるものに限定します。

Windows版:Windows Media Player

Macintosh版:Quick time Player

※プレゼンテーションに他のデータ(静止画・動画・グラフなど)をリンクさせている場合は、

必ず他データも保存し、事前に動作確認をお願いします。

演者・座長へのご案内

※モニター出力端子はD-sub15ピンに限定いたします。

※D-sub15ピン以外の変換ケーブルが必要な機種をご使用の方は、変換ケーブルをご持参ください。

2. 発表者(演者)の方へ

- ① 下記の場所にて演者受付・PCセンターを設けてあります。その場でPC動作チェックが可能ですが修正はご遠慮お願いいたします。
- ② お預かりいたしましたデータは会期終了後、主催者の責任において破棄いたします。CD-Rに書き込みの場合 CD-Rに書き込みは、ハイブリット(ISO9660)フォーマットをご利用ください。パケットライト等の特殊な機能は読み込めないことがありますのでご使用にならないでください。PC持込みの場合 液晶モニターで外部出力の確認作業をいたします。スクリーンセーバー、ウイルスチェック、ならびに省電力設定はあらかじめ解除しておいてください。電源ケーブルを必ず持参してください。バッテリーでのご使用はトラブルの原因となります。
- ③ 口演会場において 演者はセッション開始15分前までに会場内最前列の次演者席にお着きください。座長の指示のもと、演台上のマウスを各自操作して発表していただきます。
- ④ 待ち時間を厳守し、座長の指示に従い、円滑な進行にご協力ください。
- ⑤ 発表時のPC操作は発表者ご自身でお願いいたします。

3. 司会・座長の先生方へ

- ① 担当セッション開始時刻15分前までに、会場内最前列の次座長席にご着席ください。
- ② 会場では予めアナウンスをいたします。セッション開始時刻になりましたらご登壇いただき、セッションを開始してください。
- ③ 各プログラムにより進行および時間が異なります。司会・座長一任のもと円滑な進行をお願いいたします。
- ④ 終了時間を厳守いただきますようご配慮ください。

4. 講師・シンポジストの皆様へ

- ① セッション開始時刻30分前までに、演者受付・PCセンターにお越しください。

第44回日本運動療法学会学術集会プログラム

運動療法から始まる フレイル予防と地域包括ケアシステム

午前の部

09:50～10:00 開会の挨拶 石田 信彦 (学校法人和風会 多摩リハビリテーション学院専門学校)

10:00～11:00 一般演題

座長 牧田 茂

(埼玉医科大学 国際医療センター
心臓リハビリテーション科)

「運動による身体機能維持のメカニズム: 体表からの周期的局所圧迫は
間質流促進を介してその部のマクロファージの機能を修飾し
不動化による骨格筋の萎縮を緩和する」

澤田 泰宏

(国立障害者リハビリテーションセンター病院臨床研究開発部(研究所兼任))

「運動は肥満ラットの糖尿病進展を抑制とともに肝臓での
ニトロソ化ストレスを軽減する」

篠崎 昇平

(ハーバード大学医学部)

「造血幹細胞移植治療患者に対する運動療法の安全性と実行可能性」

水落 和也

(神奈川県立がんセンターリハビリテーションセンター)

「トレッドミル運動の血中炎症性サイトカインに対する影響」

金木 正夫

(ハーバード大学医学部)

「マイオスタチン欠損による筋肉量の増加は敗血症による

マウスの致死率を低下させる」

小林 真之

(ハーバード大学医学部)

「老齢男性における運動性と生体力学的機能: テストステロンとロコモ」

Julius E. Fink

(Graduate School of Medicine, Department of
Metabolism and Endocrinology, Juntendo University)

- 11:00～12:00 特別講演
座長 石田 信彦
(学校法人和風会)
多摩リハビリテーション学院専門学校
「国家戦略としての「フレイル予防」
～三位一体(栄養・運動・社会参加)を通した健康長寿のまちづくり～」
飯島 勝矢
(東京大学高齢社会総合研究機構)
- 12:00～12:20 休憩・昼食配布
- 12:20～13:10 ランチョンセミナー
座長 坪川 民治
(医療法人社団和風会)
「運動はなぜ健康に良いのか～メカニズムと新しい可能性～」
金木 正夫
(ハーバード大学医学部)
- 13:10～13:20 休憩
- 午後の部
- 13:20～13:30 総会 司会進行 石田 信彦
- 13:30～14:30 教育講演
座長 上村 民子
(医療法人社団和風会)
「急性期病院入院患者の筋量に対する臨床的アプローチ」
小林 龍也
(防衛医科大学校病院リハビリテーション部)
- 14:30～16:30 一般演題Ⅱ
座長 豊倉 穎
(東海大学大磯病院リハビリテーション科)
生駒 一憲
(北海道大学病院リハビリテーション科)
「高度肥満域の視覚障害者に対する減量プログラムの取り組み
～トレッドミルを活用したステップ運動の試み～」
山下 文弥
(国立障害者リハビリテーションセンター 障害者健康増進・運動医科学支援センター)
- 「骨粗鬆症患者におけるサルコペニアとマイオカイン」
樋口 貴彦
(宗像水光会総合病院)
- 「スロトレで筋肉を鍛えて元気はつらつ！」
多嘉良 稔
(元 松山西病院 泌尿器科)

14:30～16:30

一般演題Ⅱ

「認知課題と二重課題の併用トレーニングが
二重課題干渉の改善に及ぼす影響」

木村 剛英

(つくば国際大学)

「障害者のサルコペニアについての検討～回復期脊髄損傷者の症例から」
宮嶋 利成

(千葉県千葉リハビリテーションセンター
リハビリテーション療法部)

「回復期脊髄損傷者の体組成変化と身体機能の関連について」
佐藤 仁俊

(千葉県千葉リハビリテーションセンター
リハビリテーション療法部)

「痙性による筋収縮は脊髄損傷後の骨折治癒を促進する」
崎谷 直義

(国立障害者リハビリテーションセンター研究所
運動機能系障害研究部)

「肥満患者における歩き方の違いが歩行立脚期の
膝関節内転モーメントに及ぼす影響」

DORJRAVDAN MUNKHDELGER

(関西医科大学大学院医学研究科)

「急性期病院での低栄養患者に対するリハビリテーション栄養管理」
黒澤 洋一

(医療法人社団和風会 所沢中央病院)

「ご近所型介護予防」を導入しての運動の結果報告と今後の課題」

吉川 貴矩

(医療法人尚寿会大生水野クリニック
リハビリテーション科)

「運動療法から自立支援へ
～当院での短時間通所リハビリテーションの取り組み～」

吉澤 博之

(大生病院 リハビリテーション科)

16:30～18:00

シンポジウム

『健康長寿社会実現に向けた提言』

座長 林 潤一

(医療法人慶潤会 新都心十二社クリニック)

「超高齢社会におけるサルコペニア/フレイルの克服を目指して
～まちぐらみで創りあげるフレイル予防事業の重要性～」

池田 久雄

(帝京大学 福岡医療技術学部)

「予防医療に対するコミュニティ型遠隔医療の位置づけ」
栗原 育

(栗原クリニック東京・日本橋)

「地域包括ケアシステムを25分で理解する」
伴 正海

(横浜市立大学)

18:00～18:10

閉会式

優秀演題 表彰式

閉会の挨拶

次回学術集会会長挨拶